

## 平成28年度 自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書

点検項目	自己点検自己評価結果			学校関係者評価結果
	具体的内容	自己点検・評価	今後の改善方法・取り組み	
(1)教育理念・目標	本校の理念は次の3つである 1. 人間性教育に関する取り組み 2. 実学教育に関する取り組み 3. 教養教育に関する取り組み	1. 挨拶運動、身だしなみの指導、職員室での挨拶やマナーなどの指導ができた	1. メールや電話の仕方など早いうちに全員に指導する機会を作れると良い。	コミュニケーションの取り方がうまくできない若者が増えてきているため、人前でのプレゼンテーションの場を設ける事や、発声練習、劇団の方などの指導を入れてみるのもいいのではないかと。就職後を考えPCを活用した教育を取り入れてみてはいかがか。レポート提出課題を増やすのはいかがか。
		1、シズトレ、シズケアなどでの課外授業を通し、スポーツ現場や介護現場で積極的に選手や利用者に関わることで、現場に必要なコミュニケーション能力の構築に努めた。 2、企業等の連携における実習・演習等を積極的に展開し、業界が求める技術・知識の提供ができた。 3、学生一人ひとりの多様性を重視し、ボランティア活動や課外授業の提案、実践されることで個々の目指すキャリア構築を図った。	1、限られた学生のみでの参加であったため、もっと多くの学生に参加させた。 2、今年度実施した以上に現場の声を反映させ、現場の活動に即した医療人の輩出に寄与していきたい。 3、学生の選択肢を増やすコンテンツを増やし、卒後のキャリア構築の多様性を促進していきたい。	
		1. 学生間のコミュニケーションを図り、目標に向かって協力し合う力を養うため、勉強合宿の企画・運営を行った。その結果、学科の異なる学生間でのコミュニケーションを図る機会を与えることができ、社会に出ていくために必要なコミュニケーション能力の向上に繋がった。	1. 3年生を対象とする勉強合宿を2年生、1年生まで対象を広げ、学年を超えたコミュニケーションを育む場としていく。	
		1. 対人での最も基本的な部分である挨拶には特に力を入れた。挨拶をさせるのではなく、自ら挨拶ができるよう成長できるよう、距離感や保ちつつも明るい雰囲気や挨拶が習慣化するよう挨拶運動以外にも積極的に学生に接した。	1. 退学者の要因、傾向等を分析し、対策を講じていく。	
	4. 知識だけでなく、人間性教育にも力を入れ、目配り・気配り・心配りができる人間を育成する。十分な知識・技術・臨床力を身に付け、フレキシブルな思考力をもった全人的な医療を施す事が出来る慈愛にあふれた医療人を育成する。	4. 学生の通学時または下校時に玄関に立ち挨拶運動を行った。そのことにより挨拶が習慣化し明るい学校になった。授業前の教室に行き、学生一人一人に声を掛け表情を読み取り学生生活が充実しているか確認を日々行っている。	4. 現在、挨拶は教職員だけであるが、将来は風気委員もしくは各クラスの日直が学生が玄関に立ち挨拶運動を行うと更に明るい学校になると思われる。	

(2) 学校運営	1. 組織的運営を旨として運営している。対内的には寄付行為、学則等各種規定、対外的には厚生労働省が定めた学校養成施設指定規則、文部科学省の私立学校法指定規則を遵守しながら運営がされている。	1. 産休や退職で教職員が一時的に減少したが、事前の手配がうまくいったので、教務、財務その他において特に大きなトラブルもなく順調であった。また、各種規定を深く理解できる教職員が徐々にではあるが増えているのは非常に安心できる。	1. 各種規定、法律をトリプルチェック以上でチェックできるよう、職員一人一人の研鑽・研修を推奨し、個々人の能力を最大限に発揮できる組織にしている。	継続して安定した運営ができるよう努めていただきたい。
(3) 教育活動	1. 鍼灸学科および柔道整復学科におけるカリキュラムの充実 2. 各種部活動の運営	1. 外部講師を招いた授業の実施回数を増やすことで、より実践に近い授業の展開ができた。また、授業進行の順序を工夫することで、学生の理解度向上を達成できた。 2. 今年度からシズケアを実施することで、介護事業への就職を検討している学生への支援活動ができた。	1. 外部講師を招いた授業については、今年度以上の機会を増やしたい。また、授業進行については今後も同様とするとともに、講師の進度チェックも積極的に行ないたい。 2. シズケア講義内容の充実、授業回数の増強を図り、当該学生の支援を強化していきたい。	試行錯誤し様々な取り組みをしていただいているため、今後も継続して続けていただきたい。 今後はさらに卒業後、即戦力として働けるよう、また、患者様にしっかりとした処置ができるよう、授業内、その他研修等で、実技をもっと取り入れてはいかがか。 キャスト、固定具の使い方を技術として学生に落とし込みたい。 PCを最低限使えるよう授業で取り入れてはいかがか。
	3. 各教員がスキルアップを目指し、各講習会や学会・研修会に出席を行って自己研鑽を行っている。	3. 鍼灸学科教員がFD活動として、平成27年度から柔整学科に入学し、授業が適正に行われているか評価している。	3. 学科を越えて、各教員の授業でのアドバイス等を互いにし、更に講義力を向上していきたい。将来的に解剖学・生理学など鍼灸・柔整と重なる教科のビデオを撮影し好きな時間等で勉強できると思われるので今後検討していきたい。 3. クラス内の問題については、声掛けや学習方法の提案などを行ってきたが、授業改善に向けた具体的な取り組みは十分では無く、今後の課題である。	
	4. 資格取得に向けた対策 5. これまでの指導の他、学生に病名などを質問して調べて答えるマンツーマンを実施した。	4. 国家資格取得に向けての対策 ①正規授業外の少人数授業：正規授業外であるため、出席状況に個人差があり、成績の向上に差が生じた。 ②国家試験対策プリントの配布：国家試験対策プリントを配布することで、効率よく勉強できるが、自ら勉強していく機会を奪ってしまった。 ③模擬試験結果に基づく学習指導：成績状況を踏まえて学習方法について、個別に指導し、成績や学習への意識を改善することができた。 ④3年の鍼灸学科・柔道整復学科の成績不振者を集めて秋合宿を2泊3日で行い。自学自習ができるよう各教員が指導を実践している。 5. 自分自身も身体のことや病気のことに関心が出て、広報で使えることも学べたと思う。	4. 成績不振者に対する対策によって、その他の学生と比較して不平等な印象を与える恐れがある。成績が良好な学生にも学習支援の機会・サポート体制を整えることが課題である。 5. 3年生ではなく1年2年のうちに行うシステムがあるほうが良いと思う。	

	6. 試験合格のための座学内容に加え、一人の医療人として現場に出た時に必要とされる物の考え方、スキルなどの習得を見込んだ指導の実施。	6. 授業内外で、自身の現場での経験、実例をもとにケーススタディ方式で取るべき対応や態度などを考えさせた。リスクマネジメント的観点から最低限必要な知識を与えられたと思われる。	6. 新卒の学生に関しては社会経験の少なさから他人事のようにとらえる者も少なからず存在する。今後は具体性を増すことで全年齢層をカバーできるよう取り組んでいく。	
	7. 各科目のカリキュラムの中での適正な位置づけについて	7. カリキュラムはカリキュラム委員会を組織し、現在の社会のニーズに合った学習カリキュラムをなすよう定期的な見直しを行っている。またカリキュラム委員及び卒業生からの情報を集め、より現場で必要となる技術・知識を教授できるようにしている。	7. 現状のチェック体制を維持し、今後も法令等の遵守に努める。	
(4)学修成果	1. マンツーマンの口頭試問で学生に先生になるという自覚を与えることができたと思う。	1. もうすこし1人に時間を掛けられた方が良かった。	1. 早い時期から授業内での導入を検討したい。	国家試験合格率が高く取り組みが良くできている。 国家資格以外の、ストレッチポール、CPR、AEDなどの資格をとれるよう勧めていくのはいかがか。
	2. 鍼灸師および柔道整復師の国家資格合格率100%達成に関する取り組み 3. 本校の教育に付随する各種民間資格の取得に関する取り組み	2. 早期段階からの試験実施によって成績不良者を顕在化させ、それらの学生に対し保護者を含めた面談や授業外の個別指導授業などを展開した。 3. 本校で取り組ませるべき資格の整理ができていない。	2. 鍼灸学科については合格率100%達成とはいかなかったが、例年通り高合格率を達成できた。今後も継続して面談指導および個別指導を継続し、高合格率を図っていきたい。 3. スポーツトレーナー資格であるJATIの資格養成を行うとともに、アロマセラピー検定の受験なども積極的に推し進めていきたい。	
	4. 国家試験合格率について	4. 資格取得に向けた対策の成果として、国家試験合格率は全国平均と比較して高い水準ではあるが、不合格者が数名出ている現状である。	4. 例年国家試験の全員受験・全員合格を目標としている。平成26年度に鍼灸学科が達成しているが、それ以降は達成できていない。3年生からの対策では無く、1年生から意識付け・目的意識を持った学生生活を送らせるようにしていく。	
	5. 最終的には鍼灸師・柔道整復師の国家試験100%合格が学修成果と思われる。その為にも学生の勉強意識を高め自学自習が出来き社会に貢献できる学生を育成することが目標である。	5. 学生一人一人に応じたオーダーメイド学習を行っている。過去問を中心とした弱点をあぶり出しを行い、満点をでるまで繰り返し行う。マンツーマン制度を行い、個々の学生の学習到達度を実践している。毎日必修(30問)の問題と解説をセットで玄関に置き自主的に勉強し、1年生から国家試験に向けて意識を高め勉強向学心を促している。学生が理解出来るまで授業時間外学習をほぼ教員一丸となって毎日行っている。	5. 過去問を与えて問題を解くだけでなく、問題の解説を独自で枝つぶしを行いしっかり理解・納得できるよう指導を行いたい。グループ学習などでグループ間で問題作成して解説もつけ、他のグループの学生達にも配り、アドバイスをもらいながらお互いに相乗効果で勉学向上を行いたい。	
	6. 国家試験合格率	6. 学習面については過去問を教科別に再構築し、3年生の成績不審者の弱点を洗い出し、それぞれに対応した弱点克服課題を作成・実施した。結果として各学生の弱点教科が本試験において足枷にならない水準まで引き上げることができた。	6. 弱点克服課題に関しては対象者ごとで実施ペースにばらつきが出たため今後継続する場合は明確かつシンプルなルールを設け、足並みをそろえた実施内容を検討する必要がある。	

(5) 学生支援	1. 学生に定期的に声を掛け、就職指導を行った。	1. 就職先となる治療院の情報を自分で見て聞いて仕入れることができたほうが、学生に有益な情報を渡すことができると思った。	1. 職員として卒業生就職先の定期的な挨拶訪問や合同就職説明会で学生と一緒に話を聞くなど、情報収集に努めたほうがよいと思った。	継続して行っていただきたい。
	2. 鍼灸学科および柔道整復学科における就職率100%達成に関する取り組み	2. 早期段階からの就職面談や履歴書指導ならびに校内において合同就職説明会を実施し学生側、企業側双方から好評を博した。	2. 今後も継続して左記の内容を実施するとともに、1、2年次からのアルバイトの推奨を行い、将来の職業意識の改善に取り組みたい。	
	3. 社会人の学生でも勉強サポートを行っている。学生のアルバイトなどの紹介。就職前学習や研修を行っている。履歴書の書き方。電話での対応。面接実地訓練などを行い。即戦力になるよう学生指導をして就職率100%を目指している。	3. 毎日の挨拶運動を実施しているので、学生が気軽に相談に来るような明るい雰囲気を作っている教員と学生との距離感が近い。	3. 退学率の防止の為に、今後は定期的にレクリエーション等、開催して学生と交流する機会を増やし、学生と教員との心の距離を近づけたい。	
	4. 学生相談について	4. 各学科各学年で担任制とし、入学1か月後に面談を実施している。また学生について気づいたことは教務会議で情報を共有し、早期に対応できる体制となっている。	4. 勉強面のバックアップだけでなく、生活面、クラスメイトとの人間関係のバックアップ体制を強化することが課題である。	
	5. 希望者への授業後の補講。成績上位者に対するのガス抜きを兼ねた学習イベントの実施。部活含む学校生活面やアルバイト等の相談受付。	5. 成績中位層の学生からはマンツーマン指導などの対策が付きにくいことから不安を感じる学生も少なくない。そのため、希望者には授業終了後短時間の補講時間を設け、不安解消と自信獲得につなげるツールとして活用してもらえた。 学習イベントでは参加対象を全学生に広げ、一定以上の成績に対し粗品を用意した。成績上位陣の息抜きとしての意味合いも含め一定の成果は得られたと思われる。 自身が卒業生であり、年齢も近いことから、学習時間の取り方や勉強方法に関する相談を多く受け付けた。身近な相談窓口として一定の効果は表せたと思われる。	5. 補講の実施は学生の不安解消としてのツールにはなるが、学生の勉学への自主性を損なう恐れがあるため、あくまで自学自習のスタンスの中で補講を利用できるという意識付けの強化していきたい。学習イベントは学生からの感想をもとに実施の回数や問題の質など内容を改める必要があり、今後継続にあたり、細かい面で改善をかけていく。 相談に対するアドバイスでも前述の通り、言われたことしかやらないというような自主性を損ねる可能性があるため、方法論の一つである点を理解させることと、学生の性格に応じて適切な返答ができるようにしていく。	
	6. 退学者数の低減	6. 学生への声掛け、講師からの情報収集を行うことで、学校生活、成績の面で問題を抱える学生に早期に対応できた。これは毎週行われる教務会議において全常勤職員で情報を共有し、教職員が一丸をなつたことで結果に結びついた。	6. 各学年、学科のクラス委員との情報交換を行い、同じ学生の目線から問題が無いかを確認する必要がある。	

	7. 就職率を高水準で維持させるための取り組みと成果。	7. 就職面においては面接指導や履歴書作成の際に、有資格者目線からポイントとなる点を選択的に強化し、就職活動時の相手企業に対するつかみを作れるよう指導をした。現在就職の専門家であるキャリアコン2名、労務のプロである社労士1名が常駐している。	7. 就職面では有資格者としての目線で指導できたのは良いが、一般的な面接指導に関しては経験不足が否めなかったため、指導教本などを参考に多角的広範囲な指導ができるように取り組んでいく。	
(6)教育環境	1. 経年劣化など状況を確認し必要時に改修工事を行っている。 2. 防災に関して、転倒防止、飛散防止フィルム等整備をした。 3. 専門業者に委託し緊急時マニュアルの作成をした。 4. 各予防接種を実施 5. 消毒薬、マスクの配布を行った。 6. 自販機設置 7. 災害時防災備品貯蓄	1. 限られた予算内で効率と機能性を考え行った。 2. 実際に天災が起こる事を仮定し事前処理ができた。 3. 業者を入れ具体的な状況を想定しマニュアルを作成できた。 4. B型肝炎、インフルエンザ予防接種を校内にて実施した。 5. インフルエンザ対策とし玄関でのマスクの配布、消毒薬の設置を行った。 6. 学生用の自販機を導入。 7. 災害時の事を考え、食糧、救助備品、ラジオ等実践を考え購入。	1. 業者の選定を慎重に行うことが課題。 3. 不足備品があるため今後も導入していく必要がある。	継続的に改良をして行っていただきたい。
(7)学生の受け入れ募集	1. 高校訪問やWEBリニューアルなどを行った。 2. 卒業生かつ有資格者として現場目線を踏まえた高校での体験授業、ガイダンスの取り組み。 3. 会場ガイダンス、校内ガイダンス、講演会、鍼灸接骨院訪問、地域イベントへの参加をし広く広報をすることをを行った。 4. 入学試験において事前に情報共有をし面接を行い終了後も一人ひとり話し合いの上選考を行った。 5. 年間13回のオープンスクールを実施した。	1. 全体的に入試応募までの動きが遅かったため、注意深く候補者の動向を探って情報収集をした方がよいと思った。 2. 有資格者である点を活かし、実際の現場での活動や経験などを話に盛り込むことで、志望者に対するプラスアルファの情報を与え、質問にも対応することで具体性を持った説明を行うことができた。 3. 本年度も3月現在、入学予定者は9割となっている。 4. 感情に流されないよう気を付けなければいけない。 5. 毎月1回をベースに実施し、7、8月の繁忙期には日程を増やし対応した。また、内容を増やし何回参加しても楽しめるよう工夫した。	1. 高校生とダイレクトに関わる方法・新たなツールを検討したい。 2. 有資格者であるためベクトルが合う相手には密な内容を提供することはできた。しかし、様々な性格や志望動機のガイダンス参加者がいる中で、相手に合わせて話の強調するポイントを変えるなどの柔軟性を強化し、より広い範囲での学生受け入れにつながるよう向上させていきたい。 3. 定員に達するようさらなる広報活動が必要、また質の向上を目指す。 4. AO、推薦、一般と偏りが無いよう選考をしていきたい。 5. これまで通り活動をしていく。	地域住民へのイベントを行ってはいかがか。また、卒業生と連携し鍼灸師、柔道整復師の認知度を上げる事を行っていただきたい。

(8)財務	1. 収入状況 2. 支出状況 3. その他	1. 新規入学者もほぼ定員に近く、退学者数も少なく収支バランスは良好である。 2. 前年度の導入したLEDの節電効果、また不意の大きな支出もなかったため、支出も予算以下であった。 3. 予算執行は適切に行われており、財務状況はHPに公開している。	とりわけ支出面において、不必要な出費は抑えながらも必要な支出(主に学生向け)については予算作成時に綿密に計上し、メリハリのある支出とする。	継続し安定した運営をお願いしたい。
(9)法令等の遵守	1. 教員資格に関する事 2. 授業時間数に関する事 3. 学校設備に関する事	1. 両学科において資格要件を満たしている。 2. 全ての科目について設定学年での授業を規定数実施している。 3. 柔道整復師学校養成施設指定規則第2条第9項、10項、11項、12項、13項および14項に関する規定を遵守している。	1. 2. 3. 今後も継続して法令遵守に取り組むとともに、平成30年度から予定されるカリキュラム変更に対しても、コンプライアンス遵守しながらも柔軟に対応していきたい。	継続し法令に則り安定した運営をお願いしたい。
4. 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4. 各学科は法定人数の専任教員を確保し、すべての教員・講師は資格・要件を備えている。資格・要件の確認は必ず免許証およびそれに代わる証明書の写しを保管し、万全を期している。	4. 現状のチェック体制を維持し、今後も法令等の遵守に努める。		
(10)社会貢献・地域貢献	1. 地域貢献の要望を可能な限り受け入れた。	1. 講演の要望が多いことから、講演ができる先生・卒業生の声掛けが広がると良いと思った。	1. 地域貢献となる一般向けの応急処置やツボ押しを体系化し、講演ができる卒業生を育成したい。また学校の広報につながるような取り組みも取り入れたい。 地域貢献をしたい人たちを組織化したい。	これまで以上に地域貢献に繋がる様活動してほしい。
2. 献血推進・骨髄バンク推進・盲導犬普及活動・トレーナー派遣	2. 学生、教職員に対し啓蒙活動を行い25人程献血を実施。骨髄バンク1名該当。イベントへの派遣を行えた。	2. 参加者が増えるよう必要性を周知していきたい。		

(11)卒業生支援	1. 鍼灸・柔道整復学科卒業生に対して卒業研修会として研修の場を提供	1. 年間複数回、卒業生に対し研修会を実施し、外部・内部の先生にお越しいただき明日から使える技術を学ぶことを目標に行った。	1. より良い内容を求めることと、参加者を増やす様進めていきたい。	まだ実績は少ないが継続して進めてほしい。
	2. 社会保険労務士より様々な制度の紹介、カウンセリングを含めフォローしている。	2. 助成金、労働契約等の整備を含め様々なフォローを実施し高評価を頂いている。	2. 対応できる範囲で進めていきたい。	

【学校関係者評価結果の活用について】

自己点検・自己評価は引き続き職員全員で実施できるよう周知確認する。評価項目に学校独自の取り組みより良い学校作りに活用し、各項目の達成目標を決め取り組んでいきたい。

平成28年度学校関係者評価会議

開催日： 第1回 平成28年9月15日(木) 第2回 平成28年3月16日(木)

学校関係者委員

小澤喜一(公益社団法人柔道整復師会副会長)  
 榎田誠(公益社団法人静岡県鍼灸師会青年広報部長)  
 海野真史(スポーツ堂接骨院院長)  
 田中真人(たなか整骨院院長)  
 杉本将(みなり整骨院院長)

齋藤照安(静岡医療学園専門学校校長)  
 岩崎毅史(静岡医療学園専門学校事務長)  
 水野晋悟(静岡医療学園専門学校教務主任)  
 中村協(静岡医療学園専門学校鍼灸学科学科長代理)  
 塩澤知宏(静岡医療学園専門学校広報主任)